

居宅支援事業所の取り組み

「新人ケアマネジャーの悩みに真摯に向き合う」

居宅新人事例検討会の開催 1回目・2回目

「新人ケアマネジャーの悩みに真摯に向き合う」ことを目的に、今年度は3回の事例検討会の開催を予定しています。今回は1回目と2回目の概要を報告致します。

事例検討会第1回目 2013年7月24日(水)

於：サテライト今宮会議室

「悩みながら光を見つけていってほしいです！」

～新人ケアマネジャーの悩みに真摯に向き合って事例検討会を開催～

第1回目の新人ケアマネジャー事例検討会を9事業所24名の参加で開催、サテライト今宮の会議室は熱気に溢れました。みやこケアプランセンターと葵会総合ケアステーションより事例が出され、2つの分散会で事例を深めていきました。

葵会総合ケアステーション介護支援専門員 國井 牧子

【事例1：アルツハイマー症の84歳の独居の女性】

住宅が老朽化し療養できる環境にない状況でした。ショートステイとデイサービスで在宅を維持されていましたが、家族の協力が弱く今後の支援のあり方をどうするべきか悩み深い状況でした。

【事例2：肝臓がんのターミナルで67歳の独居の男性】

禁酒の指導を受けるがなかなかアルコールを断ち切れず、また余計な世話はしてほしくないヘルパー支援を断りがちに。訪問看護とヘルパーでどこまで在宅を支えていけるか不安がありました。

意見交換や具体的なアドバイスの中で、事例を提供されたケアマネジャーから、「息子さんの意見をしっかりと受け止めて今後の方向を見定めたい。特養の申請という手段に気づけて良かった」「ご本人がどう過ごしていきたいのか、その意思を改めて確認していきたい。ケアマネジャーとして医療と介護の連携を進めていく要でありたい」と感想が出されました。

参加したケアマネジャーからも「1つのケースに多数のケアマネジャーが意見を出し合い、個々の考え方や支援の方法が違うことを実感」「たくさん意見を聞くことができ参考になった」「新人の事例をみんなに見てもらい、意見を頂けたらとても安心できるのでは」など積極的な意見が多く寄せられました。

地域でともに考え、高め合い、困った時には協力し合えるケアマネジャー同士の関係を今後も築きあい、大切にしていきたいと思います。

事例検討会第2回目 2013年10月16日(水)

於：サテライト今宮会議室

第2回目のテーマは「独居」。西賀茂診療所居宅、紫竹地域包括支援センター、ひなたぼっこより事例が出され、参加者27名が3グループに分かれて活発な討論を行いました。

ひなたぼっこ介護支援専門員 近藤 和美

【事例1：金銭問題・認知症を抱える独居高齢者の自立支援の方をどう支えるか】

被害妄想や不安感などを抱えながらも、本人は在宅生活を望まれると感じ悩まれているケースでした。グループから、家族との信頼関係、医療連携、生活歴などの質問が出され、ケアマネジャー自身、施設入所の選択肢があることや、アセスメント力の重要性を感じられたそうです。

また、認知症の評価をしっかりと行い内服なども含めて主治医と連携する事、利用者が安心感を得られるように援助する事や、利用者自身にも役割を持ってもらうよう働きかけることが大事とアドバイスがありました。

【事例2：身寄りのいない独居高齢者どのように支援するのか】

民生委員や地域との関わりはあるが、家に誰かが来るのを拒むためデイサービスやヘルパー等のサービス利用にはつながらず、また病状の悪化による入退院という経過もあって、悩まれているケースでした。

「包括支援センターと民生委員との連携が強い」「(本人に拒否があっても)地域や民生委員さんなど皆に支えられ恵まれたケース」「拒否する方は生活能力を持っている。その人らしい生き方でいいのではないか」などのアドバイスがありました。

事例提供者は「サービスは絶対必要と考えてしまっただが、介護保険サービスにつなげることが全てではないこと、タイムリーに動かないといけない時を見極めることが大切と感じた」と話されました。

【事例3：事業所やケアマネジャーとのトラブルが絶えない方への対応に苦慮】

トラブルのある度に事業所を転々とされてきた方の対応に悩まれている事例でした。

常に苦情を言うこ

